

令和 5 年度

入学者選抜学力試験問題



国 語 (前期)

[注 意]

1. 監督者の指示があるまで、この冊子を開かないこと。
2. この冊子の問題は 14 ページからなる。落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所などがあれば監督者に申し出て、問題冊子の交換を受けること。
3. 監督者の指示に従って、4 枚の解答用紙に受験番号および氏名を必ず記入すること。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された場所に記入すること。
5. 解答に字数制限のある場合は、句読点を字数に数えること。
6. 解答は、内容とともに、用語、表記、構文にも注意して書くこと。
7. この冊子は持ち帰ること。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権の関係で公開できません。

1～8頁

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

(伊藤亜紗『手の倫理』一部改変)

問一 二重傍線部(ア)のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 傍線部(1)「道案内の矢印」が伝達モードのコミュニケーションだといえるのはなぜか、八〇字以内で説明しなさい。

問三 傍線部(2)の「自分がAというつもりで伝えたメッセージが相手にとってはBという別の意味を持つ……さらには、発言や表情から相手の反応を読み取り、その場で言葉遣いを微調整したり、言うべき内容を修正したりする」に当てはまる具体例となるように、解答欄の会話例を完成させなさい。

問四 傍線部(3)「見伝達の度合いが高いように見えるコミュニケーションでも、そこには何らかの生成的要素が紛れ込んでい」る」について、結婚式のスピーチを例に挙げて二〇〇字程度で説明しなさい。

問五 傍線部(4)「《ほごきつつ拾い合う関係》とはどういうことか、九〇字以内で説明しなさい。

問六 傍線部(5)「手の倫理」とはどのようなものか、筆者のいう「倫理」と「道德」の違いをふまえながら、一〇〇字程度で説明しなさい。

二 次に掲げる甲・乙・丙は、『落葉物語』に収められた逸話である。それぞれの文章を読んであとの問いに答えなさい。

【甲】 豊臣太閤、高野山へ登られし時、注① 挽割の粥を出せと有りしかば、やがて参らす。太閤打ち笑みて、「此の山は石磨なき所と聞きしに、A 我割粥を好むによりて、心きぎて持ち登りしならん」と大に喜び給ひけり。実には磨なかりければ、人数多し 人数多しア て組板の上にて刻みける也。後、其の事を聞き給ひて、「磨なくばなしといふて止みなん。我が勢ひにては、一粒づつ削らせて食はん事心のままなれど、それは極なき過奢ぞ」とて、大に怒られけると也。

【乙】 豊臣太閤、聚楽の亭に点茶の会有りて、注② 中院内府を招かれしに、ころしも冬の未なれば、庭の草木も霜いと白く置きて、朝日やややさし出るほどに、遣水より煙の立ち上るなんと、いと物静かなるに、春待ち顔なる鶯の呉竹に木伝ひて、まだ音も立てやらぬさまを太閤御覧じて、「和歌の徳は目に見えぬ鬼神をも和らぐると聞き侍れば、あはれ歌詠みて、注④ 陽谷の春の景色を返し給へかし」と有りしかば、内府打ち笑みて、「それは其の人の徳にこそより侍らめ。B 通茂などが身にて、如何でさる事は思ひかけ侍るべき」と宣ひながら、

朝霜の寒きねぐらの呉竹にひかげ待ち得て鶯ぞなく
と詠み給ひければ、やがてかの鶯打ち上がりて、花やかに一声鳴いて飛び行きければ、C 太閤をはじめ並み居る人々、限りなく愛で感じけるとぞ。

【丙】 注⑤ 勤修寺宰相家に古き屏風の有りけるを、いつの頃よりか、物のうしろに押しやりて用ゐる事もなかりしに、或る時穂波殿注⑥ の侍所より、「屏風やある。貸し給へ」といひ遣せしに、取り出して見れば、女の多く寄りて居れる様を絵に書きたり。縁損じ紙破れて浅ましく成りたるを、其のままにて借り、其の夜穂波殿の端者、坪の内にて怪しき女の子抱きたるに行き逢ひ、驚き怯えけり。物怖ぢしての空目ならんと人々笑ひ居たるに、それより夜毎に出て、人々の眼に見えければ、怪しみて其の行く方を見するに、彼の屏風のあたりにて見失ひければ、さてはそれが業なめりとて、屏風を勤修寺の家に返しつ。取

り納めんともせず其のままあたりに置けり。其の夜より勸修寺殿にも、人の怯ゆる事有りけるに、ある一人の小侍、彼の屏風を見ていふやう、「此の頃御内の人の怪しみあひける女は、此の絵の内にこそあるなれ」とて、傍かたへの人を呼びて見するに、
 実にも夜な夜な見し如く子抱きたる女あり。怪しがりて、其の絵の頭に細き紙を張りて置ければ、其の夜よりは先の女、頭に紙の付きたるままにて、壺注⑩前裁つぼまきの内に遊び居たりける。「さればよ」とて、その由宰相殿すけに申しければ、絵師共どもを召して彼の屏風を見せ給ふに、皆々驚きて、「是は土佐注⑩の光起が筆にて、めでたく書きなせしものなれば、さる奇異の事もありしならん」と申しければ、それより深く秘藏し置かれけるとぞ。

(『落栗物語』による)

注 ① 挽割の粥——細かくひき割った米で作った粥。 ② 聚楽の亭——豊臣太閤の邸宅。

③ 中院内府——中院通茂。和歌を学び、宮廷歌壇の中心として活躍した人物。

④ 陽谷——中国で太陽が昇る場所とされる東の果てのこと。ここでは、朝日が明るく照らす場所、といった意味。

⑤ 勸修寺宰相家——藤原氏北家の流れをくむ一族。 ⑥ 穂波殿——勸修寺家の親族である人物。

⑦ 侍所——家の事務をつかさどる侍の詰め所。 ⑧ 端者——召使いの女。

⑨ 坪——中庭。 ⑩ 壺前裁——中庭に植え込んだ前栽。

⑪ 土佐の光起——画家。江戸時代、土佐派画風の基礎を作った人物。

問一 二重傍線部(a)・(c)について、それぞれ文法的に説明しなさい。

問二 波線部(ア)・(イ)の主語を文章中の語を用いて答えなさい。

問三 傍線部A・Bを現代語訳しなさい。

問四 傍線部Cについて、「太閤をはじめ並み居る人々」が「限りなく愛で感じ」たのはなぜか、説明しなさい。

問五 傍線部D「さる奇異の事」とはどのような「事」か、五〇字以内で説明しなさい。

三 次の文章は、褒禪山(華山)という山を訪れ、山中の洞窟に足をふみ入れた際の遊覧記(王安石「褒禪山に遊ぶ記」)の一節である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

余^ハ与^ニ四人、擁^{シテ}火^ヲ以^テ入^ル。入^レ之^ニ愈^ク深^{シテ}、其^ノ進^ム愈^ク難^ク、而^{シテ}其^ノ見^ル愈^ク

奇^{ナリ}有^{リテ}怠^ラ而^{シテ}欲^{スル}出^{デント}者^ハ曰^ク、「不^ク出^ズ、火^ハ且^チ尽^ル。」遂^ニ与^レ之^ニ俱^ニ出^ツ。蓋^{シテ}予^ノ所^ニ至^ル

比^{スレバ}好^ム遊^ラ者^ニ尚^ホ不^レ能^ハ十^ハ一^ノ。然^レ視^ニ其^ノ左^ヨ右^ヲ来^{タリテ}而^{シテ}記^ス之^者已^ニ少^シ。蓋^{シテ}其^ノ

又^タ深^{ケレバ}則^チ其^ノ至^ル又^タ加^{ヘン}少^{ナキヲ}矣^ハ。方^ニ是^ノ時^ニ予^ノ力^ハ尚^ホ足^{リテ}以^テ入^ル、火^ハ尚^ホ足^{リテ}以^テ

明^{ラカニ}也^{ナリ}。既^ニ其^ノ出^{ツレバ}則^チ或^{ヒト}咎^{トガム}其^ノ欲^{スル}出^{デント}者^ヲ而^{シテ}予^モ亦^タ悔^{ユル}其^ノ随^{ヒテ}之^ニ而^{シテ}不^レ得^ル

極^{ムル}夫^ノ遊^ブ之^ノ樂^{シミヲ}也^{ナリ}。

於^テ是^ニ予^ハ有^リ歎^ム焉^{ナリ}。古^ノ人^ノ之^ノ觀^ル於^テ天^ノ地[・]山^ノ川[・]草^ノ木[・]虫^ノ魚[・]鳥^ノ獸^ヲ往^ク

往^ク有^リ得^ル以^テ其^ノ求^ム思^フ之^ノ深^ク而^{シテ}無^キ不^レ在^ラ也^{ナリ}。夫^レ夷^{タヒ}以^テ近^{ケレバ}則^チ遊^ブ者^衆

險^ニ以^テ遠^{ケレバ}則^チ至^ル者^少。而^{シテ}世^ノ之^ノ奇^キ偉^キ・瑰^キ怪^キ・非^常之^ノ觀^ハ常^ニ在^{リテ}於^テ險^ニ遠^ニ

而人之所ナリまれニ罕ハ至ル焉。故非ニ有レ志者不ル能ハ至ル也。有リ志矣、不ル隨フニ以テ止ム也、然レドモ力不足者、亦不ル能ハ至ル也。有リ志与力、而又不ル隨フニ以テ息ム、至リ於幽暗昏惑、而無ニ物以相テ之、亦不ル能ハ至ル也。然レドモ力足以至焉、於人イテハニ為シ可シト譏シ、而在シテ己ニ為ス有レ悔イ。尽クシテ吾志也、而不ル能ハ至ル者、可シ以テ無レ悔矣、其孰能譏ランヤ之乎。此予之所得也。

〔唐宋八大家文読本〕による

注 ① 怠——進むのに嫌気がさす。

② 記之者已少——遊覽を記念して壁に記した文字がすでに少ない。

③ 加少——少なくなる。

④ 有得——教えを得る。

⑤ 以其求思之深而無不在也——深い探求心をもち、常にその態度を身につけていたためである。

⑥ 奇偉・瑰怪・非常之觀——奇怪、壮大ですばらしい景観。

⑦ 然力足以至焉——とはいえたどり着く力があつたのだから。

問一 二重傍線部(a)・(b)を、送り仮名も含めてすべて平仮名で書き下しなさい。

問二 波線部(ア)をすべて平仮名で訓読しなさい。現代仮名遣いでも良い。

問三 波線部(イ)・(ウ)を現代語訳しなさい。

問四 傍線部A「物」の指すものを、第一段落から抜き出しなさい。

問五 傍線部Bについて、作者の体験を記した第一段落から、これに該当する箇所を始めと終わりの三文字を抜き出しなさい。

句読点は除くこと。また返り点・送り仮名は省略して良い。

問六 傍線部C「此予之所得也」とはどのようなことをいうのか、七〇字程度で説明しなさい。

問題冊子公開用追加資料

滋賀大学教育学部 前期日程 国語 令和5年度 入学者選抜学力試験解答用紙より

—

問三

a 「数学、宿題むずかしかったね」

b 「

a 「

「

「